

**相模女子大学日本学国際研究所主催 紀伊國屋書店アカデミック・ラウンジシリーズ**  
**「相模女子大学日本学国際研究所と学ぶ・知る・考える」講演概要**

Vol.5	日程・開催時間	2025年5月18日（日）14:00～15:30
	タイトル	インバウンド時代の英語との付き合い方 一観光現場から見える日本の言語コミュニケーションの未来ー
	講師	相模女子大学学芸学部英語文化コミュニケーション学科教授・相模女子大学日本学国際研究所副所長 宮本 節子
	内容	日本の観光現場での英語コミュニケーションは大きく変化しています。AI翻訳やネット検索が日常の一部となり、また世界中から実際に様々な目的や関心を持った方々が訪れる中で、実際にはどんなやりとりが行われているのでしょうか？国内のさまざまな観光スポットで起きている出来事を読み解こうと試みたところ、意外にも、「正しい英語」より「伝わる工夫」の方が大切ったり、身振り手振りが思いがけない効果を発揮したり…。当日は、そうした観光の現場での発見をお話します。これからの時代に求められる英語コミュニケーションの姿が、従来の英語教育とは少し違う形で見えてくるかもしれません。

Vol.6	日程・開催時間	2025年7月6日（日）14:00～15:30
	タイトル	スクリーンの裏側 一助監督から監督へ・金子修介の軌跡
	講師	相模女子大学客員教授・映画監督 金子 修介 氏
	内容	ロマンポルノ、『1999 年の夏休み』『毎日が夏休み』、平成ガメラ三部作とGMK ゴジラ、『デスノート』『ゴールド・ボーイ』など、長年にわたって数々の秀作・話題作を創作してきた金子修介監督が、映画を志した若き日（1978 年）から社会的・文化的な環境が激変する中で、どのように映画作りに向き合ってきたのか。自身の出発点を振り返った新著『無能助監督日記』（KADOKAWA）のエピソードや、実際の映画制作の経験談を交えながら、映画とその時代について思いのだけを語ります。

Vol.7	日程・開催時間	2025年9月28日（日）14:00～15:30
	タイトル	江戸の戯作がみた「世界」と「日本」
	講師	相模女子大学名誉教授 風間 誠史
	内容	江戸時代には様々な読み物が出版され、知られざる傑作？怪作？も色々あります。今回はその中から、主人公が「世界」に飛び出した物語を紹介します。「世界」の国々では、不老不死で皆が「死」に憧れています。男女が平等で、女性が出産するかわりに男性がつわりで苦しんだり…、そして最後にとても恐ろしい国に至って、主人公は「日本」へ逃げ帰ります。どんな恐ろしい国なのでしょう。海外渡航が禁止され、限定された「世界」の情報しかなかった時代の想像力に触れてみましょう。

Vol.8	日程・開催時間	2025年11月30日（日）14:00～15:30
	タイトル	願えば叶うは本当か
	講師	相模女子大学客員教授・JAXA宇宙科学研究所教授 羽生 宏人 氏
	内容	書店でふと巡り合った1冊の書籍「成功哲学」（ナポレオン・ヒル原著）は、私の思考の基盤を作ってくれた大切な1冊です。この書籍を手に取った頃の自分は、思ったことがどうにもうまく進められずに悩んでいました。どうやったら思い通りになるのか、という素朴な疑問を抱えて過ごしていた時に「成功哲学」という文言が目に留まったのだと思います。内容は実に明快で、なぜ自分が壁にぶつかっているのか、なぜ達成できないのか、その理由を理解するに足るものでした。良くある話ですが、人に貸したら戻ってきませんでした。どうしても欲しいと思い改めて購入し、以来何度も読み返しては目標の実現を目指し、そしていくつかの仕事は思った成果を得ることができました。もちろん今は誰にも貸すことなく大切に保管しています。